様式３

令和２年度９月２０日

令和２年度　結果の分析及び今後の改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	（貫）9年間を通して，Society5.0に必要な学力を育成する	(貫)「主体的・対話的で深い学び」を充実させるための授業改善	6月からの授業再開のため三角ロジックとICTを活用したグループ別研究授業は2学期に向けて計画中である。またアンケートから「三角ロジック」「ICT」の活用については各教員が率先して取り組んでいる状況である。授業の中で生徒が「授業では理由を明らかにして発表している」ことについては60％以上の生徒ができているが，声の大きさも含めて課題のある生徒もいる。研究授業の評価については現状実施数がすくないため後期の報告となる。	グループ別研究授業を実施していく中で教師側は「三角ロジック」「ICT」を利用し，生徒が授業では理由を明らかにして発表できるような授業展開を仕組んでいき，指導の定着に取り組む。その中で授業参観者がきちんと授業評価を行い，授業者にフィードバックし授業力を高めていきたい。
		横断的・総合的なカリキュラムデザインおよび評価の工夫による学びの質の向上	教科及び総合的な学習の時間において，1学期の「課題発見・解決学習」の単元や貫きカリキュラムを十分に実施することができなかったことが関係していると考える。特に，「自分の考えを積極的に伝えている」については，話し合いや伝え合う場面の設定が難しいことが多大に影響していると考えられる。また，「調べたことなどを，図，グラフ，表などにまとめている」については，普段の授業の中においても情報収集したことを工夫してまとめていくという場面の設定が十分でないことが影響していると考える。	これまで開発した「課題発見・解決学習」の貫きカリキュラムの計画を，現状に応じて実施可能な形に臨機応変に変更し，実践していく。また，各教科の普段の授業の中で情報収集したことを整理・分析し，自分の考えを伝え合う場面を方法を工夫して設定していく。
★★	(貫)礼節と挑戦心を身に付け，健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展	臨時休業期間があり，運動会などの生徒が主体的に活動する場面が減っている中で，生徒会が取り組んだ地域の方へメッセージ作りを行った。地域の方からの暖かい言葉や手紙などが学校に届き，がんばって良かったという思いを持った生徒が多かったのではないか。	例年、2学期は文化活動発表会などの取組が行われ，各学年とも自主的な活動の場面がさらに増えている。生徒会を中心に，より積極的な活動をしていけるよう支援していきたい。
		不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	・担任だけでなく，学年教員を中心に生活ノートや個別の面談などを分担して行うことで，様々な視点から生徒一人一人に関わることができている。 ・不登校になりそうな生徒に対して，小さなことでも情報交換をする中で，早めに対応ができている。不登校の生徒に対しても，本人・保護者等の連携を定期的に行っており，その情報はアメニティー環境推進委員会などを通して全教職員で共有している。	・今後も多くの教員がいろいろな立場や角度から関わりを持ち，常に情報を共有するような体制を作っていく。 ・保護者や生徒の願いや思いを受け止めながら，どのような対応をすればよいかを，アメニティー環境推進委員会を中心に引き続き連携していく。
★	（貫）地域に感謝・貢献し活力を生み出す学校をつくる	地域の人材活用及び生徒の地域社会で貢献・協働できる場の充実	・7月21日（火）に地域と児童生徒の参加による「7・9広南防災の日」第1回祈念式と防災モニュメント「誓いの碑」の除幕式を行った。校区に甚大な被害をもたらした昭和42年7月9日の土砂災害をはじめとする地域の災害の歴史を受け継ぎ，未来に向けて防災・減災を誓う式となった。これは，学校が核となる地域貢献の取組となった。 ・生徒アンケートや保護者アンケートからも，学校が「地域貢献」の使命を持ち，「地域との関わり」を十分に果たしているという認識を得ている。	・広南避難プログラムにおいて，小坪地区の避難情報について，3学年を中心に自治会と協議したい。この取組を通して防災の視点で地域貢献を行う。 ・総合的な学習の時間の各学年の地域で挑戦する場を設定する。 1学年：「落語」ふれあいサロン等で表現 2学年：「起業企画」広南劇場で販売活動 3学年：「未来貢献～世界の人とつながろう～」広南劇場で創作劇
		活動の充実に向けた，子供と直接向き合う時間の確保（業務改善）	・職員朝会を活用し，毎日短時間であるがモジュール校内研修を行った。そして，放課後の研修を原則行わず，部活動や補充学習など生徒と直接向き合う時間を確保した。（モジュール研修テーマ「研究主題の実践」「公立入試から求められる力を紹介」「各教科の評価について」など） ・教職員は，仕事の仕方について優先順位を付けたり，時間を決めて会議を行ったり，時間外勤務時間を各自で管理するなどタイムマネジメント力が高まっている。	・今後もモジュール校内研修を積極的に活用し，内容の充実も図る。また，放課後の研修や会議は極力避けるよう見通しをもって研修等を行うことで，引き続き，生徒と直接向き合う時間を確保する。 ・今後も行事等を「何のために行うのか」，「生徒に力を付けるために必要な取組なのか」という視点で精選し，業務改善を行う。 ※その際，コロナ対策を第一優先で検討する。